

# 西の菜時記

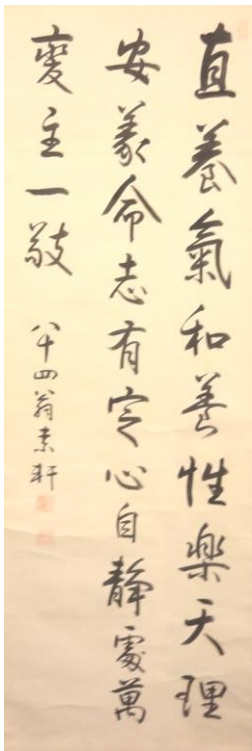
特集：長州三筆紹介・おごうさんアルバム

山口市菜香亭：〒753-0091 山口市天花1丁目2番7号 TEL:083-934-3312 FAX:083-934-3360

平成30年4月30日発行  
第48号

発行元：山口市菜香亭  
指定管理者  
特定非営利活動法人  
歴史の町山口を甦らせる会

直は氣を養い、和は性を養う（素直な心は氣を穏やかにし、和やかな氣持が生命を育てる。天理を樂しみ、承命に安んず（天命を受け入れ、やすらかにしよう）。素介が最晩年に好きな如世訓を並べた漢詩文です。



直は氣を養い、和は性を養う（素直な心は氣を穏やかにし、和やかな氣持が生命を育てる。天理を樂しみ、承命に安んず（天命を受け入れ、やすらかにしよう）。素介が最晩年に好きな如世訓を並べた漢詩文です。

明倫館で学んだ後、江戸へ行き、幕府の昌平坂学問所教授だった塩谷宕陰（とういん）から漢籍・経書・歴史を学び、幕府重臣の小島成斎から書道（あべまさひろ）を学びました。小島成斎は、日米和親条約の締結に大きな役割を果たした阿部正弘（あべまさひろ）に仕え、黒船来航のときペリーに渡す幕府の返答書を書いた人でもあります。成斎は、幕末三筆といわれる市河米庵（いちがわべいあん）に学びました。のちに古典の書法を習得するべく臨書に努めました。素介もその影響が唐の時代の書を好んで書きました。

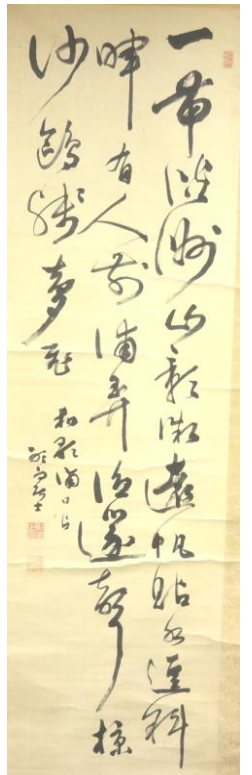


国立国会図書館蔵

菜香亭には、長州三筆とよばれた中の二人の書が所蔵されています。野村素介（のむらもとすけ）野村素介は、天保13年（1842）に長州藩士有地家の次男として、現在の山口市大内長野に生まれました。

## 書から紐解く明治維新 長州三筆の漢詩墨痕

一帯淡州山影かすかにして（辺りには淡路の山影が微かに見え、遠帆水に貼し斜暉を逗む、遠く船が水に浮かび夕日をうけている。和歌山の海辺の景色を詠んだ漢詩文です。



一帯淡州山影かすかにして（辺りには淡路の山影が微かに見え、遠帆水に貼し斜暉を逗む、遠く船が水に浮かび夕日をうけている。和歌山の海辺の景色を詠んだ漢詩文です。

大内氏の重臣杉家の末裔となる名家・杉家の養子になり、明倫館で学んだのち藩主の小姓を務めました。文久元年（1861）幕府の西欧使節団に選ばれ、長州藩士として早期に西欧を見聞しました。その経験をかかれ下関戦争長州藩が4か国の艦隊と下関で砲撃戦をくりひろげたで敗戦したあとの和議に高杉晋作にもなつて出席しました。新政府では宮内省にはいり、のちに大正天皇の教育係をつとめ書の指導もしました。



山口県文書館蔵

杉孫七郎（すぎまごしちろう）杉孫七郎は、天保6年（1835）に長州藩士植木家の次男として、現在の山口市大内御堀に生まれました。藩の重臣、周布政之助の姉が母にあたります。

## ◆菜香亭市民ギャラリー出展作品紹介・予定表◆

### ＜市民ギャラリー出展作品の紹介＞

Project Re Yamaguchi地撮り 写真展  
—Yan(山口アートネットワーク)— 1/5～1/8



萩往還「松陰街道」俯瞰  
—池田孝— 3/7～3/12



出展ご希望の方は、2ヶ月前までにお申し出ください。  
(お問い合わせ) TEL:083-934-3312  
FAX:083-934-3360

＜平成30年度 市民ギャラリーの予定＞6月

月日	時間	タイトル	主催者
6/8～10	10時～17時	歴史を感じて…押し花展	ワールドプレスフラワー協会山口県支部 花ごよみ
6/10～11	9時～17時	ひろまり絵画教室展 ～創造性豊かな山口の子どもたち～	ひろまり絵画教室



### 俊龍寺と豊臣秀吉廟

菜香亭から北に約500m行った天花2丁目に俊龍寺がある。この寺の境内に意外にも山口と縁もゆかりもない豊臣秀吉の廟と足利義輝とその母堂、足利最後の将軍であった義昭の供養塔が並んである。

寺の門前にある説明板によると、「毛利輝元が秀吉の死を聞き、その冥福を祈るため家臣の柳沢元政に豊臣太閤の廟の建立を命じた」とある。

毛利輝元は豊臣政権五大老の一人であり、関ヶ原の戦いでは石田三成に西軍の総大将に祭り上げられた豊臣恩顧の武将である。

このため、豊臣秀吉が慶長3年（1598年）8月18日に63歳の生涯を閉じたとき、その冥福を祈るため毛利輝元が供養塔を建立させたことは、うなづける。

しかし、何故縁もゆかりもない山口の地に建立されたかは、家臣の柳沢元政の経歴を調べてみると納得できる。柳沢元政は京都の公家・藤原北家の分流の出身で、13代将軍足利義輝、15代将軍足利義昭に仕え、その後豊臣秀吉から毛利輝元の家臣へと主君を渡り歩いている。

毛利輝元に出仕し、大内氏の重要拠点であった山口高嶺城代に任じられた。この時、元政は現在地にあった猷殊院を位牌所とし、かねて秀吉から拝領していた鎧を納め、秀吉の法名から俊龍寺と改め、墳墓を築いたと言われている。

又、同じ俊龍寺に柳原元政が輝元の下命によりかつての主君であった足利義輝とその母、足利義昭の供養塔も慶長三年に建立したものである。

俊龍寺にある比較的小さなそれぞれの供養塔を見ていると、遠く足利幕府の滅亡と豊臣秀吉の死による豊臣家の衰退、関ヶ原の戦いに敗れ防長二州に移封された毛利家の処遇などの歴史の流れを感じざるを得ない。

これらの供養塔は、室町時代後期から桃山時代の形式をよく伝えていることから、平成15年3月18日に山口市指定有形文化財に指定されている。  
(津田良之)



俊龍寺の本堂



豊臣秀吉の廟と足利義輝とその母堂、足利最後の将軍であった義昭の供養塔が並ぶ。